

野菜の需給・価格動向レポート(平成25年2月4日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	1月の価格動向				生育及び価格の2月の見通し		
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均 販売価額					
		上旬	中旬	下旬			
葉 茎 菜	キャベツ 	88.05	116	104	111	・愛知産は、低温の影響で玉伸びが悪く小玉傾向となっているものの、出荷量は少なかつた前年を上回る見込み。千葉産は、1月28日の降雪の影響を受け、収穫作業の遅れから少なめの出荷となっており、今後は出荷量が回復するものの、少なかつた前年並みの出荷の見込み。 ・千葉県の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		83.73	107	99	111	・入荷見込数量：3,700t (95) ・主産地：愛知 (55)、大阪 (13)、和歌山 (10)、兵庫 (8)	
	ねぎ 	229.99	316	283	241	・千葉産は、1月28日の降雪と低温の影響で細目傾向となっており、今後はやや少なめの出荷の見込み。埼玉産も、低温の影響で細め傾向となっており、今後は平年をやや下回る見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は平年をやや上回って推移する見込み。	
		309.39	489	359	341	・入荷見込数量：690t (100) ・主産地：群馬 (25)、埼玉 (21)、鳥取 (19)、静岡 (11)、大分 (9)	
	はくさい 	61.12	67	68	60	・茨城産は、最近の低温の影響により生育が停滞し、小玉傾向で少なめの出荷となり、今後は少なめの出荷の見込み。群馬産は、小玉傾向のため少なめの出荷となっており、今後出荷の最盛期を迎えるがやや少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、平年をやや上回って推移する見込み。	
		68.7	78	71	71	・入荷見込数量：4,200t (100) ・主産地：愛知 (38)、宮崎 (18)、兵庫 (15)、茨城 (12)、長崎 (7)	
	ほうれんそう 	307.66	600	564	533	・群馬産は、最近の降雨と気温上昇により生育が進み、潤沢な出荷となり、2月いっぱい、平年を上回る出荷となる見込み。茨城産及び埼玉産は、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育低温の影響で少なめの出荷となり、今後は少なめの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、平年を大きく上回っている価格は、徐々に落ち着いてくる見込み。	
		341.25	563	588	554	・入荷見込数量：580t (105) ・主産地：徳島 (44)、福岡 (25)、群馬 (15)	
	レタス 	233.85	399	382	376	・静岡県及び香川県は、低温の影響で小玉傾向で少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。兵庫産は、少なめの出荷となっているものの、今後は天候の回復とともに出荷量が回復する見込み。 ・少なめの出荷が見込まれるものの、気温が上昇すれば肥大が進むことから、価格は、引き続き平年を上回って推移するものの徐々に落ち着いてくる見込み。 (トビック欄参照)	
		226.75	385	373	369	・入荷見込数量：830t (115) ・主産地：兵庫 (47)、徳島 (20)、香川 (10)、熊本 (9)	
	たまねぎ 	76.15	71	73	77	・北海道産は、作柄良好で前年を上回る出荷となっている。今後も平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれる中で、他の野菜の価格が高めに推移し需要が堅調なことから、価格は、平年をやや上回って推移する見込み。	
		76.15	74	83	84	・入荷見込数量：3,400t (90) ・主産地：北海道 (61)、兵庫 (29)	
果 菜	きゅうり 	370.98	516	496	384	・宮崎産は、低温の影響で生育が停滞し少なめの出荷の見込み。千葉産は、低温の影響で少なめの出荷の見込み。高知産は、好天の影響で順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。 ・高知産の出荷が順調と見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
		350.33	484	463	363	・入荷見込数量：1,050t (99) ・主産地：宮崎 (48)、高知 (21)、徳島 (20)、愛媛 (7)	
	トマト 	332.69	400	387	384	・熊本産は、好天により生育が回復していることと面積の増加を受けて少なかつた前年を上回る出荷となっており、今後は平年並みの出荷の見込み。栃木産は、生育に遅れはあるものの、月を通して増加傾向となり、平年並みの出荷の見込み。愛知産は、上旬は平年を上回る出荷量となるものの、その後は出荷量が減少する見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
		311.06	393	374	360	・入荷見込数量：850t (95) ・主産地：熊本 (61)、福岡 (13)、愛知 (10)	
	なす 	389.03	393	413	432	・高知産は、好天の影響で順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。福岡産は、低温の影響で着果数が少なかつたことに加えて細かいものが多く、少なめの出荷となっているが、下旬から出荷量が増加する見込み。 ・高知産の出荷が順調と見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
		397.74	393	413	428	・入荷見込数量：370t (100) ・主産地：高知 (39)、熊本 (28)、福岡 (14)、岡山 (12)	
	ピーマン 	551.24	708	748	773	・宮崎産は、出荷量が増加傾向となっており、上旬は平年を上回る出荷となるものの、その後は減少し平年並みの出荷となる見込み。高知産は、好天の影響で順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、好天の影響で着果数も増え、出荷量が増加し平年並みの出荷となる見込み。 ・出荷量の増加が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
		513.91	636	739	749	・入荷見込数量：250t (105) ・主産地：宮崎 (58)、高知 (28)、鹿児島 (9)	
	根 菜	だいこん 	79.03	110	97	96	・神奈川県は、生育が回復傾向となり、今後は順調な出荷の見込み。千葉産は、1月28日の降雪の影響を受け、収穫作業の遅れから少なめの出荷となっており、今後は出荷量が回復するものの、少なかつた前年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
			80.47	104	96	89	・入荷見込数量：3,300t (99) ・主産地：鹿児島 (29)、徳島 (26)、長崎 (22)、和歌山 (12)、香川 (9)
		にんじん 	101.05	126	128	131	・千葉産は、低温の影響で生育が停滞し小ぶり少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。埼玉産も、低温の影響で肥大が進まず、少なめの出荷となっており、今後は少なめの見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	104.73		114	116	120	・入荷見込数量：2,200t (97) ・主産地：鹿児島 (60)、長崎 (24)、鳥取 (6)	

種類	1月の価格動向				生育及び価格の2月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック平均販売価格	上旬	中旬	
いも	217.95	249	208	200	・入荷見込量：884t (98) ・主産地：埼玉 (30)、千葉 (30)、輸入 (11)
	219.65	194	153	160	・入荷見込量：277t (-) ・主産地：千葉 (30)、愛媛 (28)、宮崎 (23)、輸入 (11)、熊本 (7)
ばれいしょ	88.17	99	95	95	・入荷見込量：9,312t (106) ・主産地：北海道 (72)、鹿児島 (18)、長崎 (10)
	88.17	92	95	92	・入荷見込量：3,900t (104) ・主産地：北海道 (68)、鹿児島 (18)、長崎 (14)

- 1) 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)
- 2) 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
- 3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
- 4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
- 5) 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
- 6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、12月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4.998gで前年比100%、購入金額は、1,794円で同100%となり、購入数量、購入金額ともに前年並みだった。

また、小売物価統計によると、12月のキャベツの小売価格は、206円で過去5か年平均比110%、レタスは、916円で同158%となり、キャベツは過去5か年平均をかなり上回り、レタスは大幅に上回った。

生鮮野菜の購入数量及び金額（1人当たりの購入数量と金額）

年	過去5か年平均		平成23年		平成24年	
	購入数量 (g)	金額 (円)	購入数量 (g)	金額 (円)	購入数量 (g)	金額 (円)
1月	4,263	1,528	4,310	1,573	4,189	1,634
2月	4,403	1,552	4,267	1,629	4,499	1,735
3月	4,815	1,721	4,867	1,788	4,584	1,851
4月	4,779	1,812	4,796	1,789	4,620	1,904
5月	5,109	1,894	5,171	1,820	4,945	1,948
6月	5,043	1,872	4,904	1,857	5,103	1,875
7月	4,441	1,696	4,362	1,759	4,386	1,675
8月	4,348	1,719	4,392	1,717	4,245	1,618
9月	4,831	1,804	4,598	1,803	4,916	1,703
10月	5,262	1,862	5,037	1,884	5,242	1,761
11月	5,016	1,636	5,091	1,613	5,039	1,602
12月	5,145	1,834	4,998	1,792	4,998	1,794

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」

主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移 (単位：円/kg)

	キャベツ		レタス	
	過去5か年平均	平成25年	過去5か年平均	平成25年
1月	187	206	579	916
2月	203		555	
3月	207		512	
4月	248		466	
5月	175		369	
6月	140		338	
7月	149		308	
8月	138		414	
9月	142		526	
10月	150		467	
11月	155		385	
12月	148		495	

- 1) 過去5か年は平成20～24年の平均。
 - 2) 平成25年1月の値は、1月中旬の速報値。
- 資料：総務省「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

12月の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年比90%の7万2千トン、加工野菜は、同99%の16万7千トン、野菜全体では、同96%の24万トン、うち中国産は同92%の12万5千トンとなった。

平成24年全体で見ると、上半期の輸入が多かったことから、生鮮野菜及び加工野菜ともに前年を上回り、生鮮野菜は4年連続、加工野菜は、3年連続の増加となった。

野菜の輸入数量の推移

区分	平成22年		平成23年		平成24年1～12月		平成24年12月	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同月比
生鮮野菜	820,687	133	915,091	112	946,931	103	72,281	90
加工野菜	1,677,840	107	1,803,510	107	1,909,671	106	167,245	99
野菜合計	2,498,527	114	2,718,600	109	2,856,601	105	239,526	96
うち中国産野菜合計	1,284,449	117	1,409,984	110	1,458,418	103	125,366	92
中国産シェア	51		52		51		52	

資料：ベジ探 (原資料) 財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

品目	輸入先	平成23年12月(A)	平成24年12月(B)	(B)/(A)
		たまねぎ	合計	30,548
	中国	25,728	17,840	69
	アメリカ	4,800	3,833	80
にんじん	合計	4,429	4,871	110
	中国	4,256	4,762	112
	オーストラリア	138	72	52
ねぎ	合計	4,242	4,403	104
	中国	4,239	4,392	104

資料：農林水産省「植物防疫統計」。平成24年12月は、速報値である。

4 トピック — 気温とレタスの価格の関係 —

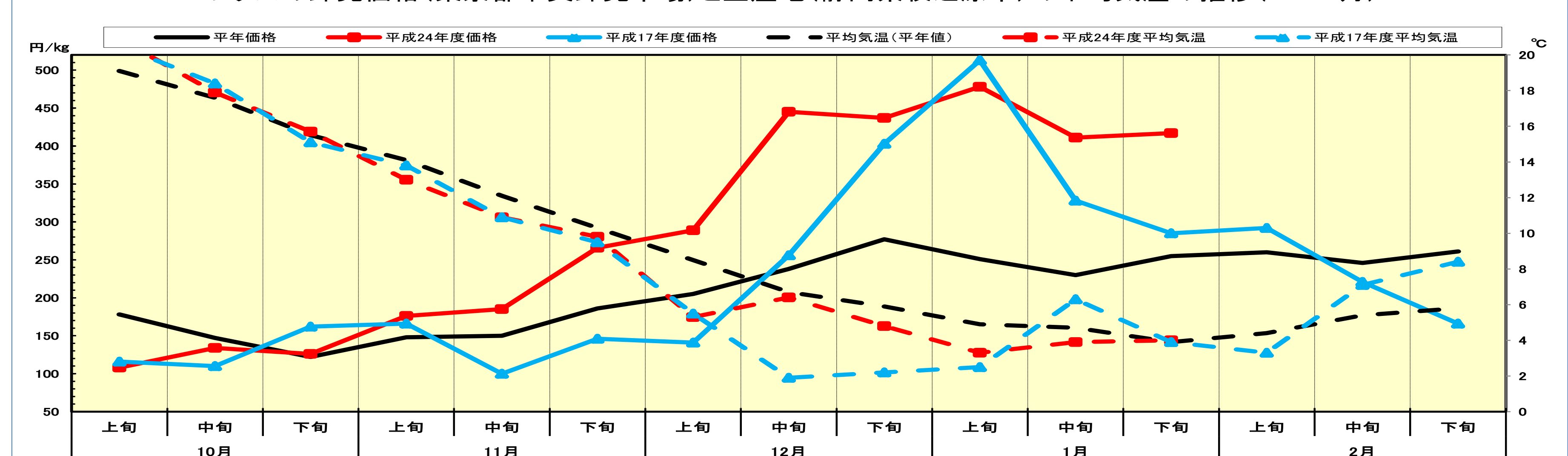
この冬のレタスの価格は、前年を大幅に上回って推移している。1月のレタスの価格は、波乱含みの年が多いと指摘する実需者も多い。実際、過去10年間のレタスの旬別の卸売価格の状況を見ると、12月下旬から2月上旬にかけて、その前後の旬に比べて価格の変動が大きくなっている。

1月に出荷されるレタスは、10月に播種・定植され、11月から12月にかけて重要な生育期間となる。冬場のレタスの生育には、特に気温の影響が大きいといわれているが、今年と似た価格変動を示した平成17年度の主産地の気温の変化を見ると、今年と同様に、11月から12月にかけて、前年をかなり下回っている。

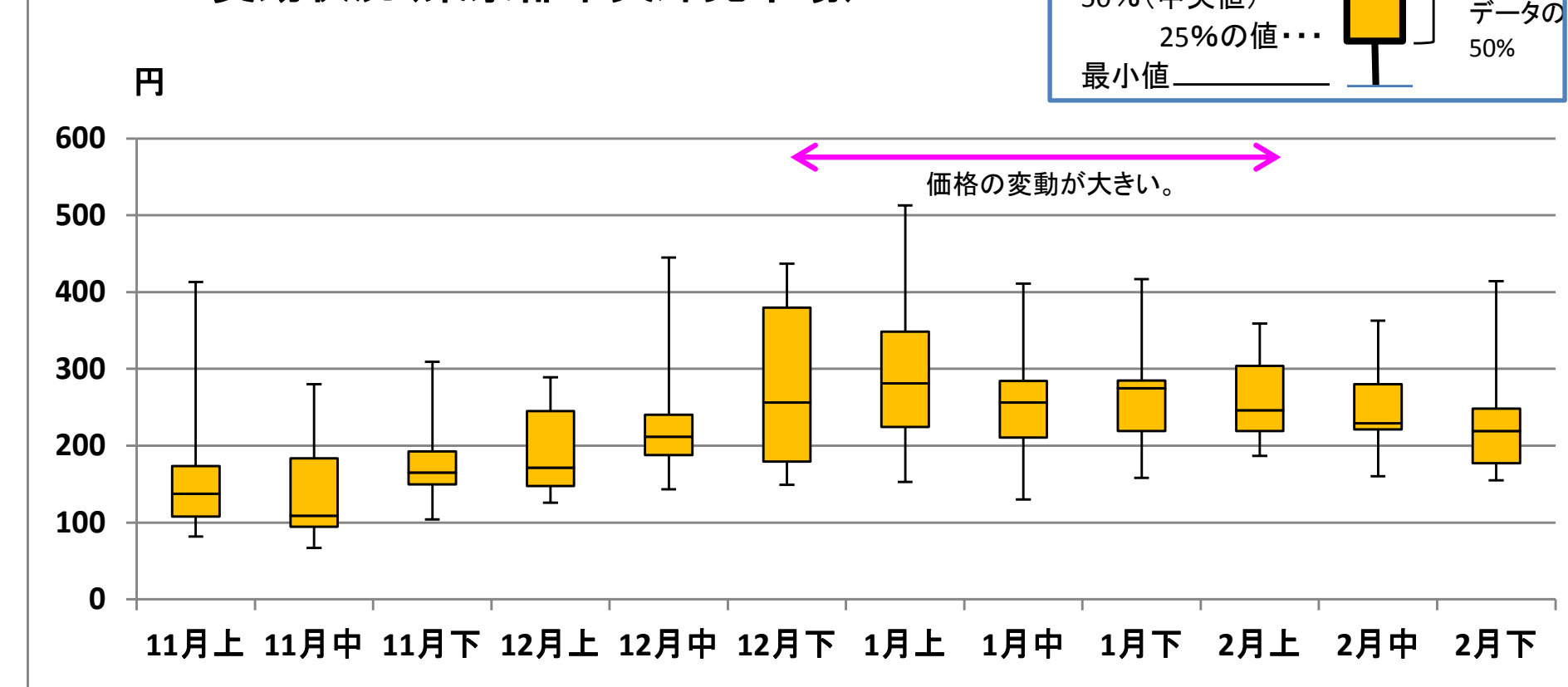
そこで、11月から12月までの積算温度と1月の卸売価格について相関をとったところ、高い相関が見られ、この期間の積算温度が低いほど、1月の価格が高くなる傾向がある。

なお、平成17年度は、1月中旬以降、気温が前年並みとなったことから、価格は1月上旬をピークに落ち着きを取り戻した。気象庁の3か月予報によると、今年の2月の気温は、前年並みと見込まれていることから、価格は、引き続き前年を上回って推移するもの徐々に落ち着いてくる見込み。

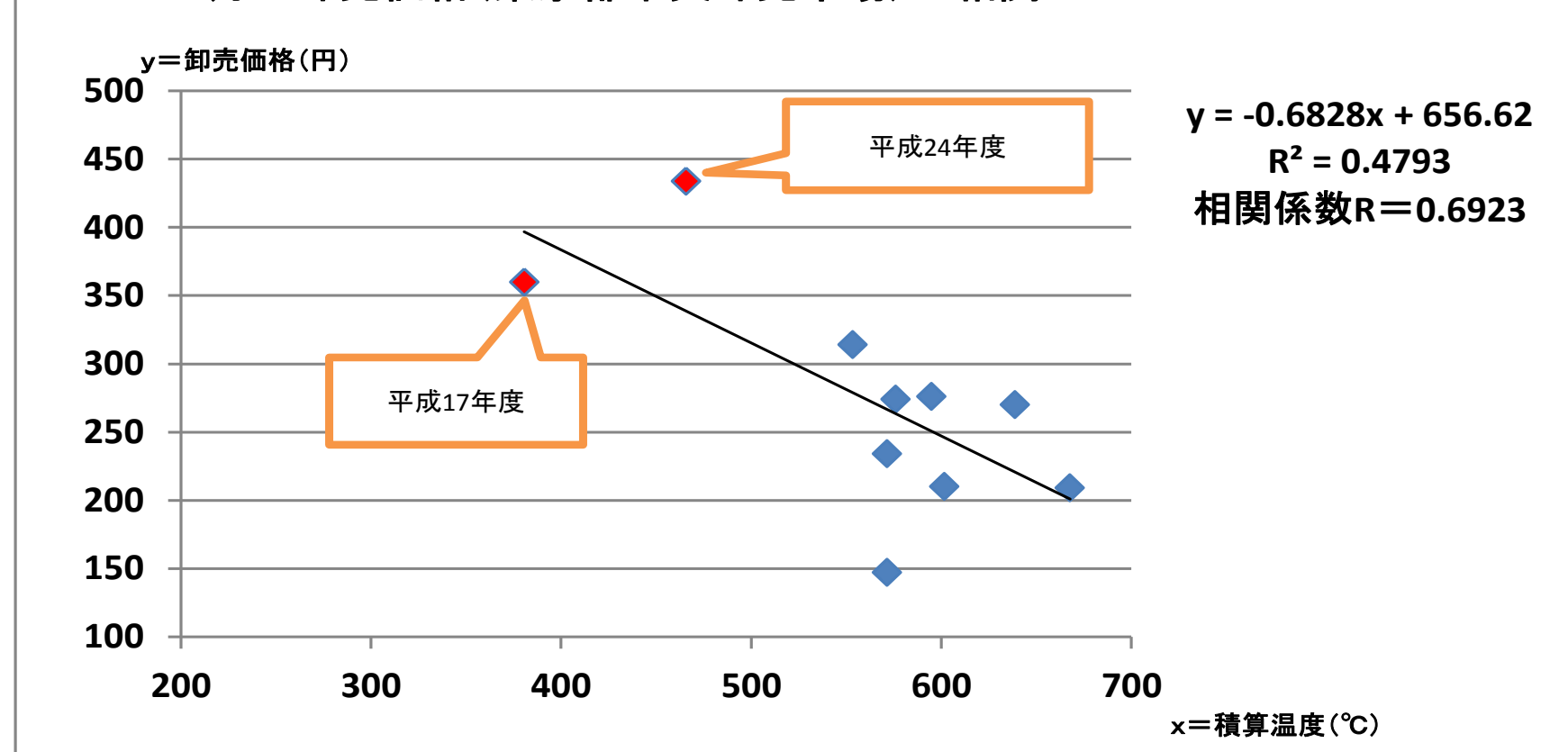
レタスの卸売価格(東京都中央卸売市場)と主産地(静岡県牧之原市)の平均気温の推移(10～2月)



平成15～24年度のレタスの旬別の卸売価格の変動状況(東京都中央卸売市場)



主産地(静岡県牧之原市)の11-12月の積算温度とレタスの1月の卸売価格(東京都中央卸売市場)の相関



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。